

(別紙様式)

都道府県番号	10
都道府県名	群馬県

()
該当する観点にチェックをすること

・ 学校名及び規模

高崎市立乗附小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	18
児童数	73	62	66	73	66	65	3	405	

・ 実践研究の概要(主題)(テーマ)及び設定の趣旨)

・ 主題(テーマ)

「深く考え主体的に取り組む児童の育成」

・ テーマ設定の趣旨

本校では「自ら考え正しく判断できる力を持ち、健康で心豊かに生きる児童の育成」を基本目標として、日々の教育活動に取り組んでいる。

児童は明るくおおらかで子どもらしさにあふれている。その反面、観察や調査結果等から、学習に対する計画性や自ら課題を見つけて探求しようとする態度等にやや弱い面があることがわかり、基礎学力の向上や基本的な学習習慣の育成が課題といえる。

また、13年度に高崎市の「学習指導」の研究指定を受け、基礎・基本の定着を図るため、「算数科における個に応じた指導法の工夫を通して」を主題として、TT指導や少人数による指導を推進した。その中で、保護者の願いや児童の実態を知るとともに、きめ細かな指導の結果として基礎学力の伸びをみる事ができた。

平成14年度はこれらの成果をもとに、フロンティアスクールとしてさらに児童個々に応じた「確かな学力」の向上を図るため、13年度に継続して研修を深めることとし、標記の主題を設定した。

研究の基本方針

深く考え、主体的に取り組む児童の育成に向け、個に応じた指導のための教材開発や指導方法・指導体制の工夫改善について研究をする。

[深く考え]

筋道を立てて考え、よりよい答えを追求する。既習事項から発展的に考えを深めたり広めたりする。

[主体的に取り組む]

興味を持って自分から進んで取り組む。

【研究仮説】

算数科において、児童一人一人の理解状況や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を実施したり、教材開発を工夫したりして、個に応じた指導を行えば、基礎的・基

本的な内容が定着し、「確かな学力」が身についていくであろう。

・実践研究の内容について（選択した観点を中心に記述）

() 研究体制の工夫

学年の発達段階や加配教員数を考慮しての組織や指導方法・指導体制を考えた。

具体的には、低学年においては、習熟の程度に応じた指導は原則として行わず、T T指導や少人数指導（名簿順）を中心とした。習熟の程度に応じた指導は中・高学年で実施することとした。このことから、研究組織を各学年ブロック単位での取組として、加配教員や専科（音楽）教員は、担当学年ブロックへの所属とした。各ブロックごとの取組については、校内の研修全体会の場で報告・協議をすることで共通理解を図った。

() 実践研究の内容

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善として。

・ T T指導、少人数指導、習熟の程度に応じた指導の実施。

1年 - さくらプランによるT T指導（全教科で）

生活科では学年T Tで2 C 4 Tとして課題別に少人数で指導

2年 - 1学級を2少人数学習集団で指導（名簿順）

3年 - 1学級を2少人数学習集団で指導（名簿順）及び1学級を習熟の程度に応じて2学習集団で指導「いきいきコース・ぐんぐんコース」

4年 - 1学級を等質の3少人数学習集団で指導及び1学級を習熟の程度に応じて3学習集団で指導「いきいきコース・ぐんぐんコース・ぱりぱりコース」

5年 - 1学級を2少人数学習集団で指導（名簿順）及び、後期は

1組は学級を習熟の程度に応じて2学習集団で指導（発展コースとじっくりコース）

2組は学級を習熟の程度に応じて3学習集団で指導（T 1が発展コースとじっくりコース（補充）・T 2がのびのびコース（基本）を担当）

6年 - 1学級を2少人数学習集団で指導（名簿順）やT T指導及び1学年を習熟の程度に応じて3学習集団で指導「いきいきコース（補充）・ぐんぐんコース（基本）・ぱりぱりコース（発展）」

・得意分野を生かした教科担任制を試行。

14年度は教科担任制の試行にむけて、情報収集や実施方法等を研究。

音楽（3年生以上で音楽専科）家庭科（5・6年生で音楽専科が対応）理科と体育の交換指導（6年生で担任が）

・地域人材を中心とした専門家などによる協力。

1年 - 学級活動「交通安全」の指導において、保護者による授業。

生活科「みんなみんなだいすき」で児童の祖父母による昔あそびの指導。

4年 - 社会科「きょう土に伝わるねがい」で「金ヶ崎用水（田村隧道工事）」の事を知っている方からの現地説明。

5年 - 総合的な学習において、「農林水産情報センター」の方と「児童の祖父母」が稲作りに関する指導。国際理解講座として「群馬県国際交流協会奨学生」に自国の様子をうかがう。社会科で「NHK前橋放送局」、性教育で「とら

うべの会」の方から生命の大切さをうかがう。

6年 - 総合的な学習において、海外青年協力隊の体験者から「ケニアの生活について」の体験談をうかがう。

()成果と課題

成果

算数科において、各学年で重点単元を絞り込んだことで、各学年の実態にあった教材開発や指導方法・指導体制の工夫についてじっくり取り組むことができた。

また、重点単元については評価規準まで具体的なものを作ることができた。

その結果、子どもたちがより意欲的に授業に取り組み、「確かな学力」を身に付けることにつながったと思われる。今後、継続して他の単元についても取り組んでいく必要があると考えている。

また、地域の方についても、総合的な学習や社会科を中心に多方面に渡って協力をいただくことができ、児童のより意欲的な取組につながったと思われる。

課題

指導方法・指導体制の工夫の面から、複数の指導者同士での打ち合わせが必要になる。その関わりが複数の学年にまたがるため、その打ち合わせ時間をしっかりした計画の元に確保していかなければならない。

また、具体的な指導方法や指導体制については、いつも決まった取組ということではなく、その単元や児童の実態に応じた取組を考え実施していかなければならない。

教科担任制の実施については担任決定の段階及び時間表決定の段階で実施を検討していかなければならない。学年だけでなくブロック担任制等も考慮する必要があると考える。

児童が身に付ける「確かな学力」の定着についての変容を、学習状況テスト等を実施しながら継続的に記録し、その結果をもとにして次の指導へと生かしていく必要がある。

家庭学習の習慣の育成という視点からも、学校と家庭・地域との連携について、今後よりよい方法を検討していかなければならない。

()成果の普及方法

- ・ホームページ上での公開
- ・紀要にまとめ、配布。
- ・フロンティアスクールの指定校同士で情報交換

()その他